

# 世界農業遺産めざす長良川流域

世界農業遺産の国内候補地三カ所の一つに、岐阜県の長良川流域が選ばれた。「清流長良川の鮎」をテーマに、来年五月六月ごろに開かれる国連食糧農業機関（FAO）の国際会議で、世界のお墨付きを狙う。ただ、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産に比べて認知度の低さが否めない世界農業遺産。登録された場合、長良川にどのような恩恵がもたらされるのだろうか。

国内候補が発表された十月二十一日、記者会見で登録を目指す理由を問われた県農村振興課の桂川直人課長は「長良川のアユのブランド力が高まり、観光客も増える」と、県の知名度向上に期待を込めた。

世界農業遺産は、FAOが二〇〇二年に創設。長年にわたって受け継がれてきた伝統的な農業と、関連する農村文化などを一体的に認定し、次世代への継承を図る。人の生活や周辺環境との共存など、伝統農法が存続してきた背景も認定の基準となる点特徴だ。

長良川では▽住民による川辺の清掃や森林保護活動などで清流が保全▽良質なアユが生息でき、鵜飼を中心とした伝統漁業が存続▽漁や観光によって住民の生活が潤うという循環をアピールしている。

しかし、制度が複雑で分かりづらい、登録地域への補助金など財政的な支援もないため、登録されることの意味は

## 清流守る努力こそ財産に

見えづらい。国内で登録済みなのは新潟、石川、静岡、熊本、大分の各県内の計五地域。

このうち、日本海沿いの急斜面に棚田が広がる石川県能登地域は、登録から三年がたった。県里山振興室の清水正雄次長は「棚田産のブランド米が好調で、農業遺産を商品名に入れる動きも増えてきた」と説明。「単に伝統農法や美しい自然があるというPRよりも、『世界』や『遺産』という言葉が付くと売りやすい」と強調する。

行政が外向きのアピール材料に使おうとする一方で、長良川に携わる人たちが取材する温度差を感じた。

### 安易な観光立県

「農業遺産をきっかけに観光立県」という安易な流れにはならないでほしい。長良川上流の郡上漁協の白滝治郎参事（まご）はきっぱりと話した。アユが取れる清流を守るには、多くの困難が待ち構えていると思うからだ。

岐阜県のアユの漁獲量は二百八十八トン（三年）で、ピーク時の一九九二年に比べて八分の一ほどに落ち込んだ。釣りブームが去ったなど社会情勢の変化が大きな要因だが、白滝さんは「長良川の水量が減っていることも一因」と感じ、先行きへの不安を漏らす。林業の衰退とともに間伐

されない荒廃した山林が増え、山の保水能力が低下。雨水が川まで十分に行き届かなくなってきたという。

### 対策社会全体で

郡上漁協は一〇年から、長良川流域で植林を開始。落ち葉が土にかえて保水力が高まる広葉樹を六・一畝に約一万三千本植え、川を育てる山づくりに励む。「健康な長良川を守るのがアユ漁には欠かせない。漁協でやれることには限界があり、社会全体できれいな川を残そうとする意識が高まってほしい」と話す。

岐阜市の長良川両岸で、年間五〜六トンごみを回収しているNPO法人「長良川環境レンジャー協会」の坂井田節理事長（まも）も「美しい水環境が守られてはじめて、漁業や観光も成り立つ」と指摘する。

十一月四日、同市の長良川右岸にあるアユの漁場で、伝統的な投網漁「瀬張り網漁」の見学会が開かれた。参加した九人が漁の様子を見学した後、アユの塩焼きを味わった。同市の男性（まも）は「三十年近く住んでいるけど、長良川の水がこんなに透き通って、天然アユがこれほどおいしいとは知らなかった」と驚いた。

ちは、きれいな環境が残されていくことを願っていた。外向きなアピールよりも、まずは内向きになって川を守る。この方が大切という考えだ。確かに、対外的なアピールをするにしても、魅力的な川やアユ、伝統漁法が残っていないければ効果も表れない。県の箔付けを狙うばかりでは、住民の思いとすれ違ってしまう。

さまざまな課題を乗り越えて長良川やアユ漁を残していくには、行政や住民、漁協などが協力して息の長い取り組みを続けていくことが必要だ。そのために、地元の魅力を見つめ直す動きが進むよう、県などは努力してほしい。世界農業遺産がそのきっかけになれば、県にとって大きな恩恵となるだろう。

「ニュースを問  
う」へのご意見  
は、〒460 8511  
中 日 新 聞 編 集 局 問 題  
「ニ」係へ。電子メ  
ールは、genron  
@chunichi.co.jp



小野沢 健太  
（岐阜支社報道部）



長良川のアユ漁見学会でアユの塩焼きを楽しむ参加者たち。岐阜市で

見学会を企画した長良川流域泉泊覧会事務局の蒲勇介さん（まも）は「身近に清流があることが当たり前になって、ありがたいことや保全することの大切さがあまり実感されていない。長良川の現状を多くの人に知ってもらう取り組みが必要」と話す。

長良川にかかわって生活する人た